

今後40年間 公共施設の更新費用 **約2兆円**

公共建築物に1兆240億円 道路などインフラに9318億円

12月7日に開かれた公共施設マネジメント特別委員会において、熊本市が保有する公共建築物の建て替えや更新のために、現状のままでいけば、今後40年間で1兆240億円、道路や上下水道などインフラには9318億円の費用を要することが明らかになりました。

市の保有する施設の約50%が、築30年を経過しており、今後40年間で、耐用年数60年を迎える施設は、80%に上ります。

特別委員会では、こうした状況に対し、公共施設の床面積の20%を削減するなど基本方針が示されました。

熊本市の方針

① 市の施設の床面積20%削減(廃止・統合・複合化)

こうした課題に対して、熊本市は公共施設の延床面積を20%削減することで、更新費用の抑制を図っています。

熊本市では、市営住宅と学校教育施設が保有面積の7割を占

めています。こうした施設とともに、公民館、老人憩の家など、地域にとって必要な施設も、統廃合の対象となることが想定されます。

② 建て替えの更新周期を60年→70年に

建て替えの周期を一般的な60年から70年に延ばすことで、更新費用を抑えることとしています。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

NO.976
2015年12月号
電話 328-2656
FAX 359-5047

納得できますか？

市民には身近な施設の廃止を迫り 熊本市は450億円のMICE施設



(3000人規模の国際会議場やコンサートホール等) **を新設**

熊本市は、公共施設の削減を市民に迫る一方で、自らは中心市街地桜町再開発(交通センター一帯)に450億円の税金を投じ、MICE施設(3000人規模の国際会議場やコンサートホール等)を新設しようとしています。

また、存続・利活用を求める声が上がっている花畑町別館も取り壊し、31億円をかけ地上8階建ての新たなビルを新設する方針です。

住民に身近な施設の削減を迫る一方で、熊本市がMICE施設など新たなハコモノを新

設することに市民の納得は得られません。

1兆円規模の更新経費が大きな課題となっているなかで、MICE施設新設はきっぱり中止すべきです。

北区・四方寄団地 廃止方針を住民に説明

北区の四方寄団地について、老朽化などを理由に廃止する方針であることが住民説明会で明らかになりました。施設面積削減の先取りの対応と言わざるを得ません。

花畑町別館の保存利活用を！～市民団体が議会に陳情

「熊本市役所花畑町別館を活かす会」は、市が解体・建て替えを決めた花畑町別館について、保存し活用を求める陳情を提出しました。

陳情書では、花畑町別館が歴史的価値のある建築物であり、「適切に管理し利活用すること」「建築関係者や市民を交え、活用について



検討の場を設けること」を求めています。

立野ダムは百害あって一利なし！！

12月1日の一般質問において、なすまどか議員は立野ダム建設問題を取り上げ、熊本市の観光に悪影響を与え、

治水においても穴詰まりなど重大な欠陥があることを指摘。ダムによらない治水対策を求めました。



そもそも立野ダムって？ 何のため？ どこにできるの？



立野ダムは、白川の洪水対策のために、白川上流・阿蘇立野峡谷に国が建設を進めているダムです。高さ90メートル、ダム下段に3つの穴があり、この穴で洪水調整を図るとしています。総事業費は917億円にのぼり、3割が県民の負担となります。

立野ダム 何が問題？② 穴が詰まれば治水機能はストップ

まともな検証をしていない国交省 鵜呑みにする熊本市

ダム下段には、直径5メートルの穴があり、洪水を調整する（大量に流れ込んできた洪水を、穴から少しずつ下流に流す）と国は説明しています。しかし、流木や岩石などにより穴が詰まれば、ダムは機能せず、水害を拡大することが懸念されています。

国土交通省は、“つまようじ”を流木と見立てて模型に流し込む水利実験を行い、穴詰まりはないと結論付けました。一般質問において、「実際の流木と比べ、はるかに軽

く、枝や根もついていないつるつるのつまようじ実験に、市民の生命や財産を預けることができるか？しっかりとした検証を国に求めるべきではないか？」と質したことに對し、大西市長は「穴が詰まらないよう対策を取ると国から伺っている」と述べるにとどまりました。

国の言い分を鵜呑みにするのではなく、市民の命にかかわることだけに、科学的な検証を行うよう国に求めるべきです。

立野ダム依存から脱却し、河川改修や遊水地整備を！ 自然と共存でき安全も守ることができます

3年前の九州北部豪雨災害を受け、白川は5年の計画で、堤防の整備や橋の架け替えなど河川改修が進められています。これにより、現在の河川整備計画が目標としている洪水レベルにも対応できるようになります。

また、河川改修とあわせ、中流域の遊水地の整備などを進めれば、ダム以上の治水機能を発揮することができるほか、自然保全や地下水涵養にも寄与します。今こそ、ダム依存の治水から脱却するときです。

立野ダム 何が問題？① 世界ジオパーク認定取り消して観光に大打撃



ダム予定地には、長い年月をかけてできた柱状節理が広がっています

阿蘇地域は、昨年、地質遺産である世界ジオパークに認定されました。立野峡谷も、溶岩が冷やされてきた柱状の貴重な地質が広がっており、ジオサイトの一つに選ばれています。しかし、この地質を破壊する立野ダム建設によって、ジオパーク認定が取り消され、熊本や阿蘇の観光に深刻な影響を与えることが懸念されています。一般質問で「ジオパーク認定取り消しはないと断定できるか」との問いに大西市長は「答える立場にない」と正面からの答弁を避けました。